

このページはボランティアの市民の方が取材・作成しています

「伝説編」

篠田に伝わる 葛の葉伝説



あま市篠田にある『葛の葉稲荷神社』をご存じですか。県道あま愛西線に面しており、周囲には住宅地が広がる中にひっそりと佇んでいます。

江戸時代には、ここに狐塚があったと言われており、「葛の葉稲荷社」と称し、近郷にその名が高かったそうです。そんな歴史の深い篠田の地に伝わる伝説をご紹介します。

物語

葛の葉伝説といえば狐女房で有名なのですが、それは平安時代に安部保名という男が信太の森で傷を負った白狐を助けました。

のちに保名が病となったおり、恩返しとばかりにキ

ツネが保名のいいなづけの「葛の葉」に化けて看病したと言います。ほ

どなく二人は結ばれて「信太丸」が生まれますが、保名たちの前に人間

の葛の葉本人が現れ、正体がばれた白狐は「恋しくば 尋ね来てみよ

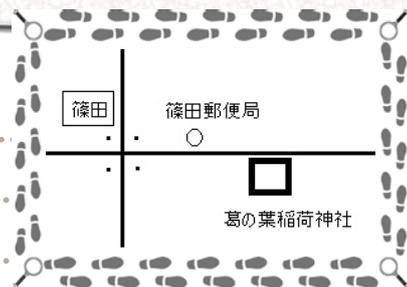
和泉なる信太の森の うらみ葛の葉」の一首を書き残し、信太の森へと

帰っていった、というものです。この物語は、浄瑠璃や歌舞伎にも取り

入れられたこともあり、全国的に知られるようになりました。大阪のお

話しが何故どのようにして篠田に伝わったのか、よく分かっていません

が、地元では永く語り継がれてきた伝説となっています。



■取材後記■ 美和歴史民俗資料館の学芸員さんからお話を伺いました。あま市内には、こうした地域に伝承され続ける伝説がいくつも存在しているそうです。葛の葉稲荷を参拝して、篠田の森にキツネがいたはるか昔の時代を想像して、歴史ロマンを楽しんでみてはいかがでしょうか。

(by 市民記者 焼き明太子)